

歴博 ぐらしの植物苑だより

第94回『植物苑観察会』11月25日(土) 13:30～ ぐらしの植物苑

「針葉樹のはなし」 斎木健一 (千葉県立中央博物館)

第11回『日本の植物文化を語る』12月26日(土) 13:30～15:30

「花木文化の粹—ツバキとサザンカの世界—」 箱田直紀 (恵泉女学園大学)

ぐらしの植物苑今週のみどころ・古典菊・冬の華サザンカのホームページ

<http://www.rekihaku.ac.jp>

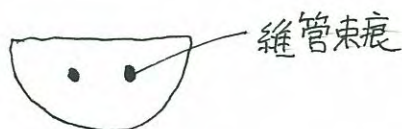
イチョウの不思議

イチョウの葉が黄色に色づき、あちらこちらでギンナンを拾う姿がみられます。イチョウは1科1属1種の植物で、雌雄異株の落葉高木です。植物の中でも古く古生代(2億年くらい前)には、葉の化石が見つかっています。平瀬作五郎が1896年に精子の発見をしたことは有名です。その発見したイチョウの木は小石川植物園にあります。葉の変異も大きく、受粉の仕組みもまた

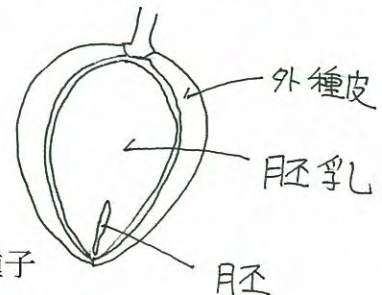


原始的な性質が多く残っています。苑内のイチョウの木は低いところに枝がありますので、葉の落ちたところをよく見てください、図のような半円形の葉痕がみられます。点のようなものは維管束痕で2個あります、2個というのシダ類とイチョウだけです。これも進化の中で興味深いものです。葉は落ちてしまいそうですが、枝には短枝と長枝があり、長枝には葉が互生しています。短枝はつまった枝で、葉が数枚かたまってつきます。花芽はこの短枝につきます。葉脈はなんども二股に分かれ扇状に広がっていきます。よく枝が横に広がっているのが雌で、雄は枝が広がらないといわれますが、違うこともあります。また葉の切れ込みは若木や剪定をした後にしばしばみられます。

ギンナンをとるときには注意が必要です、種皮は2層からなります、外種皮は肉質で柔らかく、ギンコール酸とピロボールを含んでいるので悪臭を放ち、かぶれる原因にもなります。木質化した内種皮を取り除くと薄い皮の下に食用にするギンナンが表れます。ギンナンには青酸や有機酸が含まれているので、生や多食すると、下痢をおこします。食べ過ぎには注意が必要です。



葉痕に見られる維管束痕



イチョウの種子

胚

ダイコン (アブラナ科ダイコン属)

秋播きのダイコンが大きくなってきました。根が肥大した部分を食します。成長していくと、ダイコンが土の上に上がってくるのがみえます。



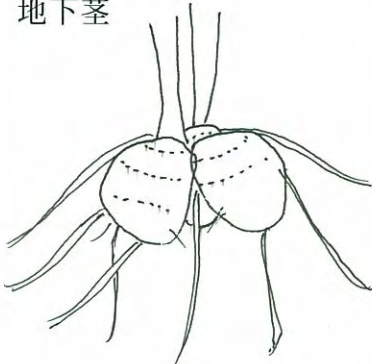
桜島ダイコン (アブラナ科ダイコン属)

鹿児島県の地方野菜の代表です。方言でデゴンといいます。ダイコンの形もそうですが、葉も上のダイコンと違い、極濃緑色で縮が多く、葉柄が長いのが特徴です。



養分を蓄える 食べるところ

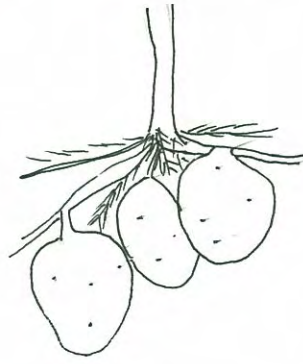
地下茎



球茎

地下茎のすぐ下につく
形は球形に近い。

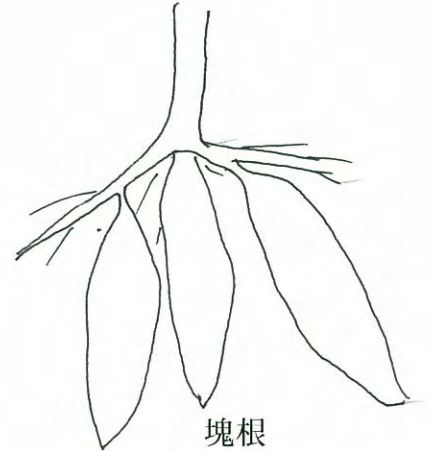
—サトイモ—



塊茎

地下茎の先端や途中につくもの形は不安定

—ジャガイモ—



塊根

茎の不定根として
つくもの

—サツマイモ—

